

情勢報告

樹勢が弱るこの時期こそ炭酸ガスを効かせたい！ ～ナス・米ナス品目別現地検討会～



炭酸ガス施用効果(米ナス)の説明を聞く生産者

1月17日、安田町と奈半利町でナス・米ナス合同品目別現地検討会が開催され、県内のナス・米ナス生産者37人と関係者43人が参加しました。

環境制御技術の早期普及を目指し、農業改良普及課は各実証ほ場の炭酸ガス株元局所施用や生育調査に基づく栽培管理、無加温促成ナス栽培での炭酸ガス施用効果実証などの取組内容を説明しました。生産者間でも活発に意見交換が行われ、「炭酸ガス施用すると葉の老化が早いと感じる」「炭酸ガスは濃度よりも施用量を重視したほうが良い」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も環境制御技術による増収効果を実証し、普及していきます。

「増収・品質UPで儲かる」かつ「美味しさでも選ばれる」ナス産地を目指して
初冬期のエコシステム栽培ナス4品種を試食しました！



エコシステム栽培ナス4品種の浅漬け姿

「所詮、ナスはナス」

…でも意外と品種・栽培環境で

味は違います

12月28日、農業改良普及課は安芸農業振興センター事務室で職員とJA営農指導員ら計10人で、安芸集出荷場管内で加温栽培された『土佐鷹』『慎太郎』『竜馬』『はやぶさ』の4品種を試食しました。試食では、果皮や果肉の食感、えぐみ等を比べました。『土佐鷹』は「皮も果肉も軟らか」「えぐみがない」「軟らかすぎて水っぽい」、『慎太郎』は「少し皮が硬いかな」、『竜馬』は「食べ慣れた味」「後味が少しえぐい」「この竜馬は比較的皮がやわいね」、『はやぶさ』は「皮が硬い」といった感想が出ました。

農業改良普及課は、厳寒期の2月頃に役員会等でも食味比較できるよう提案し、品種の食味特性を体感し、「美味しいナス」生産の支援に活用していきます。

新ブランド「土佐よさこいポンカン」初出荷直前！
～出荷目慣らし会で光センサー選果果実の食味を確認～



光センサー(左)と新しい出荷箱(右)
(黒箱が新設の特選品用)

12月21日、JA土佐あきポンカン部会が安芸ユズ集出荷場で目慣らし会を開催し、東洋町、室戸市、安芸市から生産者13人が参加しました。今年度から始まるポンカンの一元出荷及び光センサー選果に向けて、実際に光センサーで選果された果実を試食し、各等階級の食味を確かめました。

農業改良普及課室戸支所は今年産果実の特徴を説明し、試食果実を糖度計で計測して、実際の糖度を確認しました。

参加者からは、「特選品はやっぱりおいしい」「食味がそろっている」などの声が聞かれ、光センサーの効果を実感している様子でした。

農業改良普及課は、今後も新しい出荷・販売体制へスムーズに移行できるよう支援し、部会の活性化へと取り組みを繋げていきます。

普及活動情勢報告(平成 29 年1月分)

安芸農業振興センター

情勢報告

一年の総決算！ ～芸東集出荷場千両部会の出荷～



作業場でのセンリョウの選別作業

芸東集出荷場千両部会の出荷が無事終了しました。センリョウ栽培では、年に一度の千両市への出荷に向けての収穫・選別で、11月から12月中旬は鬼気迫るほどの忙しさとなります。農業改良普及課室戸支所は選別精度の向上を目的に、JAと生産者10戸の作業場を順次回り、選別の指導を行いました。

JAは主に規格について、農業改良普及課は茎や葉の障害における病害と生理障害の区別方法を指導しました。本年度は秋の雨が多かったことから、病気の発生や、養分欠乏による品質低下も多くありましたが、全体としては豊作の年となりました。

今後も、農業改良普及課室戸支所は関係機関と連携して、品質向上を支援します。

環境制御技術にチャレンジ中！ ～ブルースター現地検討会～



園主から炭酸ガス施用の実施状況と生育の感想を聞きました

1月12日、芸西村でブルースター部会が現地検討会を開催し、生産者7人とJA、市場、農業改良普及課の関係者5人の計12人で生産者のほ場を巡回しました。

炭酸ガス施用に取り組む部会長のほ場では、部会長から、「日中1時間に15分の間隔で、局所施用を行っている」「現在3回目を収穫中で収穫のサイクルが早まっている反面、少し樹勢が疲れた感じがする」との感想が聞かれました。農業改良普及課から、ナスやピーマンでは炭酸ガス施用にあわせて、かん水量や施肥量を増やしていることを紹介しました。花きでは、農業技術センターで栽培試験を行っているため、「研究員から試験の進捗状況を聞きたい」との生産者の声があり、次回の現地検討会は参加を要請する予定です。

農業改良普及課は、今後も部会活動を通じて、環境制御技術の普及を推進します。

衛生・品質管理は行き届いていますか？ ～集出荷場衛生(GAP)巡回～



問題点を指摘する普及指導員ら

1月19日、農業改良普及課は、JA、園芸連と合同で平成29園芸年度2回目の集出荷場衛生巡回をし、管内の野菜・ユズの10集出荷場を調査しました。今回は抜き打ちということで、事前通知をせずに各場の集出荷作業の工程等をチェックしました。

作業員の労働安全や衛生管理に関する意識向上を目的として、各集出荷場に啓発ポスター等を掲示していますが、数カ所で「見えにくい」という指摘があり、該当する集出荷場には、改善を呼びかけました。

農業改良普及課は、今後も定期的に集出荷場衛生巡回を行い、その結果をJA土佐あき本部園芸運営委員会で共有し、問題点を改善していきます。

情勢報告

東風グループ新商品販売に向けて検討会



販売予定の商品サンプル

1月16日、安芸農業振興センターで東風グループを対象に6次産業化支援チーム会を開催しました。グループ員4人と農業改良普及課、6次産業化アドバイザー等4人の計8人が参加し、新商品販売にあたってのラベル確認と販売計画を話し合いました。

農業改良普及課は、ラベルの記載内容について、事前にアドバイスを依頼していた食品産業協議会の回答を報告し、記入内容をメンバー全員で確認しました。また、販売計画として、2月中旬に県内の量販店15店舗で販売を開始することと、3月12日に香美市の量販店で販促活動することを決定しました。

農業改良普及課は、今後も販路拡大に向けて活動を支援します。

集落座談会を開催しませんか？ 第5回集落営農塾(組織化)を開催！



熱心にDVDを視聴する参加者

1月19日、農業改良普及課は、JA土佐あき奈半利支所で集落営農の組織化を進めるため、第5回中芸・芸東集落営農塾(組織化)を開催しました。農業者、関係機関で9人の出席がありました。

農業改良普及課は、島根県の先進事例の紹介や平成28年度集落営農塾の振り返りの後、組織設立までの進め方等について説明しました。

その後、各集落の現状や課題、今後の推進方向について話し合いました。参加者からは「単独集落での取り組みは難しいので隣接した集落と連携して取り組みたい」「すぐにはできないが、集落座談会を開催したい、来年度も集落営農塾に参加したい」といった設立に向けて前向きな意見が出される等、有意義な意見交換ができました。

農業改良普及課は、今回出された意見も踏まえて、各地域で集落営農の組織化に向け話し合いが進んでいくよう、関係機関と連携して支援します。